

# 都市空間を利用したまちめぐりアニメイベントの特徴および

## 都市との関係

佐賀大学大学院 工学系研究科 システム創成科学専攻 石 陽

佐賀大学 芸術地域デザイン学部 有馬 隆文

### 1. 背景と目的

近年のアニメファンによるアニメゆかりの地を巡るアニメツーリズムが話題となっている。アニメのコンテンツを活用する地域の観光振興や町おこしなどは、多くの都市と地域の中で行われている。

本研究の目的はアニメツーリズムの中で特に都市との関わりが強いまちめぐりアニメイベントに注目し、まちめぐりアニメイベントを整理して、その特徴を明確にする。また、まちめぐりアニメイベントの特徴とイベントの開催都市の特徴を総合的に分析することで、イベントと都市の特徴を踏まえたイベントの類型を明らかにする。

### 2. まちめぐりアニメイベントと開催都市の特徴

まちめぐりアニメイベントはアニメコンテンツを利用して、都市に複数の目的地を設定し、参加者がその目的地をチェックインするスタンプラリー式のイベントである。

本研究では日本スタンプラリー協会が提示する2018年6月までのアニメコンテンツを使用するスタンプラリー計50件の目的地などのイベント情報を収集した。それらをまちめぐりアニメイベント（以下イベント）とし、さらに、イベントを開催する29都市を小都市（10万人以下）中都市Ⅰ（30万人以下）中都市Ⅱ（50万人以下）大都市Ⅰ（150万人以下）大都市Ⅱ（150万以上）の5階級を分け、分析を行った。結果、まず、イベントに使用されるアニメコンテンツと開催都市の関係について、アニメコンテンツの舞台やゆかりがある都市が多い、一方、使用アニメコンテンツと何の関係もない都市においてもイベントの開催がみられた。

次にイベントの目的地に使用される都市空間は、駅、飲食関連施設、博物館、小売店、史跡が最も多く使われた事が分かった。さらに、目的地の分布について、「駅沿線型」「多核型」「核分離型」「集中型」「分散型」の5タイプに分ける事ができた。広域に車や電車で巡回する「分散型」「駅沿線型」と市街地の小範囲を歩行で回遊できる「集中型」「核分離型」「多核型」の目的地分布

タイプの合計割合は50%ずつを占めており、イベントの目的地の設定は、都市間などの広範囲の回遊行動もみられることが分かった。

最後、都市規模とイベントの目的地の分布を総合的に考察みると、中小都市では目的地が小範囲に集中する分布のイベントの開催数が多く、イベントによって都市内での回遊行動を促進する事が目的である。一方、大都市において、全体のイベント開催数が多いが、ほとんどのイベントの目的地が「駅沿線型」の分布となり、鉄道の利用率を促進するためのイベントが多いことを明らかにした。

### 3. まちめぐりアニメイベントと都市の関係

イベントと都市に関する、目的地に使われる都市空間の割合とアニメコンテンツとの関係性、および「昼間人口比率」、観光資源の「街並み建造物」数などの項目を因子分析とクラスター分析によって分析した結果、図1で示すようにまちめぐりアニメイベントを大都市の鉄道利用を促進するための「鉄道利用重視型」、中小都市の地域活性化のための「観光商業重視型」、イベントに使用するアニメコンテンツと関係性を重視する「アニメ聖地重視型」の3類型に分ける事が出来た。イベントの目的地は利用するアニメコンテンツと無関係の商業施設や鉄道施設などに多く設定されている。利用アニメコンテンツとの関係性を配慮し、都市の魅力向上に繋がる利用方法は今後アニメツーリズムにおける課題の1つであると考えられる。

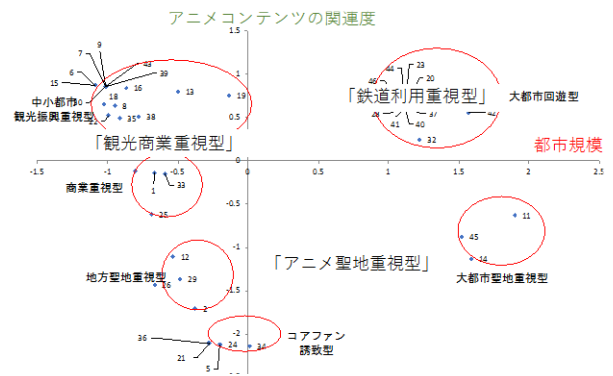


図1 まちめぐりアニメイベントの類型